

2022 年度
事業報告書

公益財団法人似鳥文化財団

1. 公益目的事業

【事業の趣旨】

歴史書類、美術品、美術工芸品、絵画、古建造物及び文化関係資料(以下「美術品等」という)の収集、保管、修繕、展示の業務を実施することにより、文化、芸術、伝統等の発展や継承に寄与するとともに、国内・海外の人々に対する文化、芸術及び歴史に関する理解の増進に貢献することを目的とする。

この理念に基づき、収蔵作品の調査研究を行い、常設展示に加え収蔵作品による企画展4回とピックアップ展6回を開催。収蔵作品についてホームページなどにより紹介したほか、館外の教育活動への協力を行った。また、歴史的建造物及び収蔵作品の維持管理につとめた。

【施設の概要】

小樽芸術村は、似鳥美術館、ステンドグラス美術館、旧三井銀行小樽支店、西洋美術館の4施設で構成される。似鳥美術館は、旧北海道拓殖銀行小樽支店(小樽市指定歴史的建造物)を活用した展示施設で、地上4階地下1階。ステンドグラス美術館は、旧高橋倉庫と旧荒田商会(いずれも小樽市指定歴史的建造物)の2階建ての2棟からなり、旧高橋倉庫は展示施設、旧荒田商会は受付やミュージアムショップなどとして使用している。旧三井銀行小樽支店は、地上3階地下1階と1階建ての付属家からなる。これら3施設に囲まれた位置には、職員用駐車場と中庭があり、ロールスロイスを格納する車庫1件と彫刻作品3点が設置されている。中庭は、小樽市内中心部では希少な緑地であり、近隣住民や観光客、遠足の子どもの憩いの場となっている。西洋美術館は、2022年4月28日、小樽芸術村の4館目の施設として開館した。小樽の観光名所として知られる浅草橋のたもとに立つ旧浪華倉庫(小樽市指定歴史的建造物)の大空間を活かし、19世紀末から20世紀初頭の装飾美術品を中心に展示している。

【事業の概要】

ア. 美術品等の収集、保管、修繕、展示

(1) 美術品等の収集

① 美術品等の購入

本年度の購入はなかった

② 美術品等の寄贈受入

田畑浩一氏より、大理石彫刻《ヴィーナス像》1体の寄贈を受けた。

③ 美術品等の寄託受入

本年度は、2,256点(組)の美術品等の寄託を受けた。

(2) 保管・修繕

以下の美術品、建物の修繕等を実施した。

- ・ 旧三井銀行小樽支店営業室天井の亀裂の修繕の緊急性を確認するため「内部天井劣化調査」実施(株式会社阿部建設)
- ・ 浮世絵版画 マッティング 72点 (佐藤額装)
- ・ 西洋美術館 ステンドグラス《花と鳥のいる風景》 修繕 (志田政人)

(3) 展示

① 常設展示

ステンドグラス美術館では、ステンドグラス 98 点のほか、工程を示すパネルや道具などを常設展示している。

旧三井銀行小樽支店では、重要文化財に指定された建造物と関連の資料を常設展示している。重要文化財指定を受けて、1 階営業室に仮設展示していたフランスのステンドグラスを西洋美術館へ移設した。また、文化庁や観光庁の補助金を活用して 360 度 VR と Web AR を導入し、来館者が楽しみながら学ぶことのできる環境整備に努めた。

似鳥美術館では、常設展示していた欧米の美術工芸品の多くを西洋美術館へ移設したことに伴い、地下の展示を東洋の美術工芸品、1 階展示室を刀剣類の展示へと変更した。2 階では、収蔵品による小規模なテーマ展示「トピック展」を6回開催したほか、彫刻作品の展示を充実させた。3 階展示室では、文化庁の補助事業の一環で展示用什器 4 基を増設して展示空間の拡張を図り、収蔵作品の活用を推進した。4 階では、新収蔵作品の収蔵時や季節毎に数点ずつ作品の入れ替えを行ったほか、展望室を銀行街の資料展示から彫刻の展示室へと変更しよりよい鑑賞空間の創出に努めた。

西洋美術館では、グラス作品や陶磁器、家具、ステンドグラスなど、19 世紀後半から 20 世紀初頭の欧米の装飾美術品を中心に約 600 点を常設展示している。4月28日の開館後も作品の増設や展示替えを頻繁に行い、展示の充実を図っている。

4館の開館時間は、5月から10月は、午前9時30分から午後5時まで、11月から4月は、午前10時から午後4時までとした。ただし、2022年7月23日～10月8日の土曜(12日間)に限り、文化庁の補助を受けて夜間開館を実施した。期間中の延長時間中(17:00～20:00)の入館者は3館で計1,230人であった。

休館日は、4月の毎週水曜日、10月の第4水曜日、11月～3月の毎週水曜日と年末年始(12月30日～1月2日)であった。ただし、旧三井銀行は、5月21日、重要文化財指定記念式典開催のため臨時休館したほか、ステンドグラス美術館では貸館のため数時間の貸切や通行制限が、似鳥美術館では展示替えや工事のため数日間にわたり閉室した期間があった。新型コロナウイルス感染症の感染防止のための時間短縮等は実施しなかった。

入館料は、西洋美術館が開館する4月27日までは原則として3館共通券が一般2,000円、学生1,500円、高校生1,000円だった。単館券は、ステンドグラス美術館は、一般700円、学生500円、高校生400円、旧三井銀行小樽支店は、一般500円、学生300円、高校生200円、似鳥美術館は、一般1,500円、大学生1,000円、高校生700円だった。いずれの館も、中学生以下は無料だった。西洋美術館が開館した4月28日に料金改定を行い、4館共通券は一般2,900円、大学生2,000円、高校生1,500円、小中学生700円とした。単館券は、ステンドグラス美術館と旧三井銀行小樽支店は、一般700円、大学生500円、高校生400円、小中学生200円とした。似鳥美術館と西洋美術館は、一般1,500円、大学生1,000円、高校生700円、小中学生300円とした。さらに9月1日にも料金改定を行い、4館共通券は一般、大学生、高校生の料金は変更せず、中学生1,000円、小学生500円とした。ステンドグラス美術館は一般1,000円、大学生800円、高校生600円、中学生500円、小学生300円とした。旧三井銀行小樽支店は、一般、大学生、高校生料金は変更せず、中学生300円、小学生200円とした。似鳥美術館と西洋美術館は、一般、大学生、高校生は従前どおりとし、中学生500円、小学生300円とした。いずれの場合も、障がい者手帳の提示者と同伴1名は無料である。

2022年度は、開館日数計338日間に、来館者406,211名(うち有料入館者151,950名)を迎えた。

② 企画展

旧三井銀行小樽支店附属家では、企画展を4回開催した。

- ・ 「川瀬巴水と吉田博 水辺の詩」

2022年4月28日(木)～6月5日(日) 展示日数39日間
入館者1,317名

- ・「小樽芸術村 浮世絵コレクション展 2022 前期 人を描く～美人画、役者絵を中心に～」
2022年6月8日(水)～7月18日(月・祝) 展示日数41日間
入館者1,582名
- ・「小樽芸術村 浮世絵コレクション展 2022 後期 こわい浮世絵、ゆかいな浮世絵」
2022年7月21日(木)～8月29日(月) 展示日数40日間
入館者1,755名
- ・「斎藤清 版画展—新収蔵作品を中心に—」
2022年9月1日(水)～10月10日(月・祝) 展示日数40日間
入館者1,158名



似島美術館では、2020年12月より2階展示室の一角で収蔵品を紹介する小企画展「トピック展示」を開始。2022年度は、下記の6回開催した。

- ・「片岡球子特集」
2022年2月17日(木)～4月19日(火) 展示日数17日間(4月1日からの開館日数) 入館者1,708名(4月1日からの入館者数)
- ・「山下清特集」
2022年4月21日(木)～8月14日(日) 展示日数115日間 入館者24,680名
- ・「葛飾北斎特集」
2022年8月15日(月)～9月25日(日) 展示日数42日間 入館者10,556名
- ・「藤田嗣治特集 第1期」
2022年9月26日(月)～11月29日(火) 展示日数60日間 入館者数10,624名
- ・「藤田嗣治特集 第2期」
2022年12月1日(木)～2023年1月31日(火) 展示日数50日間 入館者数3,684名
- ・「斎藤清特集—旅—」

2023年2月2日(木)～4月25日(火) 展示日数 50日間(3月31日までの開館日数) 入館者数 6,192名(3月31日までの入館者数)

企画展及びトピック展は、すべて収蔵作品により構成した。いずれの展示も、当館学芸部が企画し、担当学芸員が中心となり、作品の選定、運搬、会場構成、展示を行い、出品目録を配布。展示作品には豊富な解説を付し、来館者が理解しやすく、楽しめる展示とすることに努めた。

なお、旧三井銀行小樽支店では、多様な来館者のより充実した鑑賞体験を促し、楽しみや学びに資するため、補助金を活用してデジタル技術を用いたコンテンツを導入した。

- ・ 文化庁「令和4年度文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業」の一環として、360度VRを導入。旧三井銀行小樽支店内の外観及び内部空間を3D映像化。3月12日からweb上で公開、3月23日より館内3カ所にQRコードを掲載したパネルを設置し、来館者がQRコードを読み取ることによって自身のスマートフォンやタブレット端末で視聴体験できるようにした。
- ・ 観光庁の補助金を活用して、WebARを導入。動画やフォトフレームなど12のコンテンツがあり、来館者がQRコードを読み取ることによって自身のスマートフォンやタブレット端末で旧三井銀行の歴史や魅力を楽しみながら学んでいただけの内容とした。

(4) ミュージアムショップ

スタンドグラス美術館と似鳥美術館のミュージアムショップでは、当館の建物、収蔵作品、北海道及び小樽に関連した各種グッズや書籍を取り揃え、来館者のニーズに合った商品の販売活動を展開し、来館者の満足度向上につながるよう努めた。旧三井銀行小樽支店では、上記に加え、地域で制作活動を行うすぐれた作家の作品を展示販売することで、地域作家の育成の場として貢献した。また、関連会社であるニトリブリックの運営する銀鱗荘や西洋美術館のショップに小樽芸術村のPRを兼ねて図録等の販売を委託した。

イ. 美術品等の調査研究

(1) 調査・研究

歴史的建造物や関連資料と、収蔵品を中心とした美術品等の調査・研究を行い、その成果を展示に反映させた。また、下記の書籍を出版した。

- ・ 『小樽芸術村 旧三井銀行小樽支店ガイドブック』2022年5月発行 2,000部
- ・ 『小樽の文化資源と観光 講演録2022』2023年3月1日発行 500部

(2) データベース

2020年9月からワセダシステムの運用が開始され、データの入力、更新、デジタル画像の登録などを行い、芸術村のウェブサイト上でデータベースの一部を公開中である。2022年度は、文化庁の補助事業の一環でアルバイトを1名雇用し、画像の加工と登録、作品解説の更新等を行い、年度末までに累計422件を公開。1年間で26,073PV数を獲得した。

また、文化庁「令和4年度文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業」の一環として、喜多川歌麿や歌川広重など、芸術村が収蔵する貴重な浮世絵版画を中心に50作品をスキャンし、高精細データ、マスターレプリカを制作した。これによって貴重な文化財の研究と保護をはかるとともに、レプリカ絵画を増刷して希望者へ販売することで美術品の多角的波及と文化資源の磨き上げへの再投資をする計画である。

(3) 研究資料の整備

調査・研究に必要な研究図書や研究資料の購入、収集、整理を行った。

- ① 美術館・博物館の刊行物など 35 冊を受贈した
- ② 展覧会の開催や収蔵作品の研究のため 31 冊の図書を購入した

(4) 学術プロジェクトへの参加

本年度の参加はなかった。

(5) 美術品等の閲覧

所蔵美術品等の閲覧申請を受け、以下 1 件の研究に協力した。

- ・ 2022 年 9 月 6 日 地家 光二 《札幌郊外》1 点

ウ. 研究会等の開催

(1) 講演会、研究会の開催

各展覧会に関連して、外部講師による講演会や、担当学芸員による展示室でのギャラリートークを随時実施した。

- ・ 「川瀬巴水と吉田博 水辺の詩」
映画「版画に生きる 川瀬巴水」上映と見どころ解説：5月24日(火)9名、28日(土)13名
- ・ 「小樽芸術村 浮世絵コレクション展 2022 前期 人を描く～美人画、役者絵を中心に～」
ギャラリートーク:6月18日(土)4名
- ・ 「小樽芸術村 浮世絵コレクション展 2022 後期 こわい浮世絵、ゆかいな浮世絵」
ギャラリートーク:8月20日(土)4名
- ・ 「斎藤清 版画展—新収蔵作品を中心に—」
ギャラリートーク:9月3日(土)4名
講演会:10月1日(土) 市立小樽美術館主幹学芸員 星田七重 「斎藤清の出発点・小樽」10名

新たに開館した西洋美術館では、NPO 法人ワインクラスター北海道と連携した講座を開催。学芸員の解説とともにエミール・ガレやドームの作品を中心に鑑賞した後、作品にちなんだワイン 3 種をテイastingしながら、ワインについて学んだ。

- ・ 2022 年 7 月 30 日(土) NPO 法人ワインクラスター北海道 代表理事/シニアソムリエ 阿部 眞久
「ART & WINE～フランス・ロレーヌ地方の芸術と楽しむワイン～」8名

ステンドグラス美術館では、グリザイユという特殊な絵の具でガラスに絵を描くステンドグラスの制作体験会を実施した。参加者が描いた作品は、後日職員が焼成、組立てて、完成品を参加者へ送付した。

- ・ 2月11日(土)、12日(日) ①10:00、②11:00、③14:00、④15:00 のべ20名参加

このほか、文化庁「令和4年度文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業」の一環として、次の事業を実施した。

- ・ 「小樽の文化資源と観光」をテーマした連続講座を10月末から12月にかけて5回開催した。地域住民を中心にのべ192名が参加。各回の開催日時、講師、テーマ、参加人数は次のとおりである。
10月29日(土)14:00～15:30 小樽市総合博物館 館長 石川 直章「小樽の歩みを銀行街や運河保

存運動などを軸にふりかえる」32名

11月12日(土)14:00～15:30 荻原建設工業株式会社特別顧問 関口 信一郎「小樽の近代化遺産」32名

11月26日(土)14:00～15:30 北海道職業能力開発大学校特別顧問 駒木 定正「銀行街を中心とした小樽の歴史的建造物について」43名

12月3日(土)14:00～15:30 日本銀行 貨幣博物館主任学芸員 関口 かをり「小樽と大正時代の銀行街」42名

12月17日(土)14:00～15:30 NPO 法人旧小熊邸倶楽部 理事長 東田 秀美「文化財(建築物)の保存と活用」43名

- ・ ニセコエリアのコンシェルジュや観光ガイドを対象に外部講師または当館学芸員による研修会を開催し、合計31名の参加を得た。開催日時と参加人数は次の通りである。
2022年11月25日(金)10:00～11:30 通訳案内士 青木良英 “The Attraction of Otaru’s Cultural Properties” (英語のみ、オンライン) 2名
2022年11月29日(火)11:15～12:00 「小樽の美術館、博物館～小樽芸術村を中心に～」2名
2022年12月9日(金)11:00～12:00 「小樽芸術村について」11名
2023年1月20日(金)13:30～14:30 「小樽芸術村について」16名
- ・ 小樽の老舗和菓子店「新倉屋」と連携して、新倉屋本店2Fにおいて、新倉屋職員による小樽の歴史文化の紹介と「小樽名物花園だんご」の餡つけ体験を組み合わせたワークショップを3回開催した。「食」を通じた小樽の歴史文化理解の促進、関連する商業施設の周遊や消費の喚起、市内事業者との連携強化を図ることができた。開催日時と会場、参加人数は次のとおり。
2023年1月15日(日)①11:00～、②13:30～、③15:00～ 新倉屋チーフ 神田恵 のべ64名

(2) インターネットによる広報

小樽芸術村の概要や、展覧会、各種講座などの情報発信を行う当館ウェブサイト(<https://www.nitorihd.co.jp/otaru-art-base/>)は、日本語、英語、中国語、韓国語をそれぞれPC、携帯端末の双方で適正に閲覧できるかたちで運営している。2022年度は、年間のページビュー数は744,807(2021年度は410,824)PV数、ユーザー数は160,775(2021年度は95,366)名であった。ユーザーのうち約97%が日本国内からアクセスしており、約75%のユーザーが、スマートフォンまたはタブレット端末で閲覧している。

4月～7月の毎週土曜日には、ウェブサイトのお知らせ欄にコラム「今週の1点」を連載。似鳥美術館および企画展の作品解説を中心として、学芸員が執筆、更新作業を実施した。

(3) プレスリリース

西洋美術館開館や、旧三井銀行小樽支店の重要文化財指定記念式典の開催、展覧会の情報を告知する各種媒体向けのプレスリリースを制作・発信し、各種媒体への掲載やテレビ番組での放送を促進した。

(4) ポスター・チラシ、施設案内パンフレット

各館内および掲示板等に展覧会ポスターを掲示し、館内に次回展覧会の告知のチラシと美術館の利用案内パンフレットを常備し、美術館及び展覧会の認知度アップに努めた。館外においては、近隣の観光施設や文化施設、交通機関や公共施設等に展覧会のポスターやチラシを配送するとともに、効果の見込める組織

への情報提供を行った。

(5) 内覧会等内覧会・レセプション

西洋美術館の開館に際して、各種メディアの記者、観光事業者、小樽市の関係者、教育関係者、美術関係者らを対象に内覧会を実施して、顧問や学芸員による展示解説を行ったことに加え、北海道知事や小樽市長をはじめとする招待客を対象に開館式典を開催して、メディアによる宣伝活動を促進し、業界関係者や教育者などを通じての宣伝や誘客を図った。

4月27日(水) 記者内覧会 出席者 13社 40名、観光事業者内覧会 出席者5社9名

4月28日(木) 開館式典及び内覧会 出席者 70名

旧三井銀行小樽支店が国の重要文化財に指定されたことを記念し、各種メディア関係者、小樽市の関係者ら招待客を対象に記念式典と特別講演会を実施して、旧三井銀行小樽支店の価値を伝え、メディアによる宣伝活動を促進し、参加者を通じての宣伝や誘客を図った。

5月21日(土) 記念式典 出席者 56名

記念講演 北海道大学名誉教授 角幸博「北海道の重要文化財から～保存・修復・改修事業～」

記念講演会 出席者 45名

京都大学名誉教授 宗本順三「旧三井銀行小樽支店 重要文化財への経緯」

京都工芸繊維大学名誉教授 石田 潤一郎「曾禰中條建築事務所と旧三井銀行小樽支店」

大阪芸術大学准教授 小出 祐子「旧三井銀行小樽支店の建築について」

小樽市文化財審議会会長、北海道職業能力開発大学校特別顧問 駒木定正「地域の歴史的建造物の保存と活用」

石屋製菓株式会社顧問 本間哲平「最後の小樽支店長として」

(6) 他美術館との協力

- ・ 北海道美術館協力会への加盟、北海道教育委員会が推進する「アートギャラリー北海道」への参加などにより、美術館の普及や北海道観光の活性化に努めた。
- ・ 地域の博物館・美術館と情報交換や資料の貸借などを行い、地域における文化活動の活性化に努めた。7月16日(土)～令和4年9月19日(月・祝)に市立小樽美術館で開催された「特別展 画家と娘 岸田劉生〈麗子〉とともに/大正・昭和初期の小樽の画家たち」の期間中、似鳥美術館 3階での岸田劉生作品の展示と関連させて入館料の相互割引を行った。また、2022年9月1日(水)～10月10日(月・祝)の旧三井銀行小樽支店での企画展「斎藤清版画展」開催時期は、市立小樽美術館において斎藤清作品の展示を実施したほか、市立美術館の学芸員による講演会を芸術村で開催するなどの連携を図り、徒歩圏内にある2つの美術館の周遊を促す動機づけとした。

(7) 地域との連携

連携協定を結ぶ小樽市、北海道立近代美術館、公益財団法人札幌市芸術文化財団、一般社団法人札幌観光協会、一般社団法人小樽観光協会、余市町、仁木町との情報交換や観光プランの検討、広報への相互協力などを行った。

地域の小中学生の見学の際には、少人数の場合のみ質問への対応などを実施するなど、子どもたちの学習への支援を行った。

また、次のとおり市内で開催される各種イベントの実施に協力した。

- ・ オタルサマーフェス実行委員会主催「OTARU SUMMER FES 2022」の開催に協力し、旧三井銀行小樽支店と中庭を会場として提供した。期間中、旧三井銀行小樽支店の入館料を無料とし、ひろく来館を促した。

2022年7月25日(月)～7月31日(日) 「小樽100年写真展」 期間中の来館者数 3,285名

2022年7月30日(土)～7月31日(日) 「子どもガーデン」、「ナゾ解き～小樽歴史めぐり～」利用者 3,062名

- ・ 小樽サンモールストリートピアノジャンボリー2022 実行委員会主催による市民参加によるピアノコンサート「Street Piano JAM2022」の開催に協力し、旧三井銀行小樽支店と西洋美術館のテラス席を会場として提供した。当日は、旧三井銀行小樽支店の入館料を無料とし、ひろく来館を促した。

2022年8月27日(土) 来場者数:旧三井銀行小樽支店会場 829名、西洋美術館会場 1,332名

- ・ 小樽堺町通商店街が主催する「小樽堺町ゆかた風鈴まつり」と連携して、中庭に設置したワイングラスにキャンドルを灯す「グラスキャンドルの夜」を実施し、7日には小樽アカペラフェスティバル実行委員会主催によるアカペラコンサートを実施した。

2022年8月6日(土)、7日(日) 「アカペラ×グラスライト」 会場:小樽芸術村中庭 参加者 905

名

- ・ 地域のスポーツ教室 SAFY と連携し、未就学児を対象としたプログラムを実施した。クリスマスが近い時期の開催だったことから、ステンドグラス美術館において、クリスマスにちなんだステンドグラスの解説と、館内に展示する巨大なクリスマスツリーの飾りつけをした。

2022年11月17日(木) 参加人数 親子 30名

- ・ 小樽雪あかりの路実行委員会主催による「雪あかりの路」の会場として中庭を提供し、小樽青年会議所による雪の巨大滑り台やコンサートなどが開催され多くの人々でにぎわった。また、最終日には、小樽堺町通り商店街振興組合の協力を得て、小樽芸術村主催によるアカペラコンサートを西洋美術館展示室で開催した。コンサート開催中は、展示室を無料で開放し、多くの観光客らが訪れた。

2023年2月11日(土・祝)～18日(土) 小樽雪あかりの路小樽芸術村会場

2023年2月18日(土) 「アカペラ×雪あかりの路 in 小樽芸術村」 会場:西洋美術館 参加者 288名

なお、文化庁「令和4年度文化庁文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業」の一環として、次の事業を実施した。

- ・ 小樽運河周辺地区の商業観光施設と連携した商品開発事業:「小樽和菓子工房游葉」と連携し、小樽地鶏の卵を使用したどらやきに小樽芸術村のシンボルマークの焼き印を押したどら焼きを開発。パッケージデザインは、すぐれたデザインのオリジナルグッズの制作・販売を行う「うんがぶらす」に依頼し制作。11月25～27日にかけてウイングベイ小樽で開催された「otaru スイーツフェスタ 2022」会場と、西洋美術館ショップで販売した。

(8) 有料広告

下記の有料広告を通年で行った。

- ・ JR 新千歳空港コルトン
- ・ JR 札幌駅コンコース内アート広告
- ・ JR 小樽駅 ナビタ
- ・ 道央自動車道(上り)パーキングエリア 輪厚 ナビタ

(9) 小樽芸術村友の会

「小樽芸術村友の会」は、固定客層の獲得を目的として、2016年の開館当初に開始した会員組織で、2022年度末の会員数は1,265(2020年度は1,149)名である。企画展の入館料(特別展やイベントなどは対象外)および年間パスポートを20%割引で購入できるほか、各種ご案内の送付を行っている。

(10) 美術品の館外貸出

以下の展覧会に収蔵品の貸出しを行った。

- ・ 小樽市総合博物館企画展「百年の礎」 小樽市総合博物館本館企画展示室
会期:2022年7月23日(土)~11月3日(木・祝)
旧三井銀行小樽支店看板 1点
非常持出用葛箆 1点
図面、文書類 5点 計7点
- ・ 「面構 片岡球子展」
【横浜展】そごう美術館(横浜市) 2023年1月1日(土)~1月29日(日)
【福岡展】北九州市立美術館分館(北九州市) 2023年4月8日(土)~5月21日(日)[予定]
【岩手展】岩手県立美術館(盛岡市) 2023年6月3日(土)~7月17日(月・祝)[予定]
片岡球子《面構十三人衆内 國芳(歌川)》1点

(11) 画像の貸出

本年度は、7件の申請を受け、11点の画像を館外の刊行物等に提供した。

(12) 施設の貸与

以下のイベントに施設を貸与し、催事への協力を行った。

合計 29件 410名 (2020年度は42件 1,056名)

| 年月日 | 施設名 | 用途 | 団体名 | 利用人数 | |
|-------|-------|-----------------|----------|--------------|----|
| 2022年 | 4月13日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | フォートハマダ | 2 |
| | 4月15日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | ココスタイルウェディング | 36 |
| | 5月14日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |
| | 5月15日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |
| | 5月15日 | 旧三井銀行小樽支店・似鳥美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |
| | 5月16日 | 中庭 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |
| | 5月17日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |

| | | | | |
|--------|---------------------|----------|--------------|----|
| 5月22日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | ココスタイルウェディング | 40 |
| 6月4日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | ココスタイルウェディング | 55 |
| 6月5日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | フォートハマダ | 4 |
| 9月4日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | 小さな結婚式 | 6 |
| 9月6日 | ステンドグラス美術館 | コスプレ撮影 | 柴田様 | 2 |
| 9月9日 | ステンドグラス美術館・中庭 | 挙式 | ココスタイルウェディング | 40 |
| 9月9日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | フォートハマダ | 4 |
| 9月11日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | 小さな結婚式 | 8 |
| 9月17日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | 小さな結婚式 | 84 |
| 10月1日 | 中庭 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |
| 10月2日 | 中庭 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |
| 10月3日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |
| 10月4日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 6 |
| 10月5日 | ステンドグラス美術館・三井銀行小樽支店 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 10 |
| 10月10日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 2 |
| 10月16日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | フォートハマダ | 4 |
| 10月22日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | ココスタイルウェディング | 40 |
| 10月23日 | 中庭 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 5 |
| 11月3日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | ココスタイルウェディング | 17 |
| 11月20日 | ステンドグラス美術館 | 挙式 | ココスタイルウェディング | 11 |
| 11月21日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 10 |
| 1月22日 | ステンドグラス美術館 | フォトブライダル | ココスタイルウェディング | 8 |

2. 処務の概要

ア. 役員に関する事項

2023年3月31日時点の役員

2023年3月31日時点の本財団役員は以下の通りになります。

| 役職 | 氏名 | |
|----------------|-------|--|
| 代表理事 | 似鳥 昭雄 | 株式会社二トリホールディングス 代表取締役会長 株式会社二トリ 代表取締役会長 |
| 副理事長 業務執行理事 | 似鳥 靖季 | 公益財団法人似鳥国際奨学財団 理事 |
| 理事 | 遠山 葉子 | 慶應義塾大学アートセンター 教授・キュレーター |
| 理事 | 田中 健 | 那須オルゴール美術館 館長 ケンズインターナショナル株式会社 取締役会長 |
| 理事 | 宗本 順三 | (株)ラウムアソシエイツ一級建築士事務所 代表取締役 |
| 理事 | 志田 政人 | アトリエ・ルプランス 掛川ステンドグラス美術館 顧問 |
| 評議員 | 安藤 隆春 | 株式会社二トリホールディングス 社外取締役 |
| 評議員 | 森 眞澄 | 株式会社二トリ 顧問 |
| 評議員 | 遠藤 結蔵 | (株)ゲオホールディングス 代表取締役社長執行役員 |
| 監事 | 薄井 保男 | 薄井公認会計士事務所 公認会計士・税理士 |

イ. 会議に関する事項

理事会

| | | |
|------------|--------|------|
| 2022年5月25日 | 第1回理事会 | 書面決議 |
| 2022年6月11日 | 第2回理事会 | 東京 |
| 2023年2月7日 | 第3回理事会 | 書面決議 |
| 2023年3月15日 | 第4回理事会 | 東京 |

評議員会

| | | |
|------------|---------|----|
| 2022年6月11日 | 第1回評議員会 | 東京 |
|------------|---------|----|

事業報告の附属明細書

*2022年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人法に関する法律施行規則」第34条第3項に規程する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成を省略する。

＜事業報告書＞

| | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|---------|---------------------|-------------|---|-------|---------|-----------------|-------------|--|
| 事業の名称 | 小樽芸術村文化観光拠点施設機能強化事業 | | | | | | | | | |
| 事業の趣旨 | <p>公益財団法人似鳥文化財団の運営になる文化資源保存活用施設、①似鳥美術館、②ステンドグラス美術館、③旧三井銀行小樽支店を擁する「小樽芸術村」を文化観光拠点施設とし、小樽市及び一般社団法人小樽観光協会、小樽堺町通り商店街振興組合、一般社団法人ニセコプロモーションボードと連携し、札幌市とニセコ地域の間位置する地の利を生かしつつ、周遊型の「文化観光」を推進する。</p> <p>小樽市は、小樽運河や北海道最古の鉄道、銀行や倉庫群といった歴史的建築などの観光資源に恵まれている。クルーズ船の寄港をはじめ、インバウンドが観光に占める比率が高い地域である。将来的にも小樽・倶知安町（ニセコ地域）間的高速道路開通（2027年度頃）、北海道新幹線の札幌延伸（ニセコ回りルートで2030年度末開業）が予定されており、石狩・後志地方にまたがる周遊を促進する環境も整う。小樽とニセコ地域間の周遊ルートの開拓は、近年、国際リゾート地として目覚ましい発展を続けるニセコへの外国人来訪客を小樽へと取り込み、文化振興と同時に消費拡大へと繋げる試みとなる。</p> <p>また、東京オリンピックのマラソンや競歩、サッカー3試合の開催（2021年夏）、さらに札幌オリンピック（2030年開催地立候補予定）も控え、観光振興への期待が高まっている。現在はコロナ禍で観光客数が落ち込んではあるが、将来的には伸びが期待できる観光客が各施設の保有する文化資源の魅力に触れ、地域文化への理解を深めることができるよう、施設設備の機能強化や解説の多言語化等を進め、最新の情報通信技術を活用して鑑賞環境の充実を図り、施設の魅力を高めて利用の増進に繋げる取組を行う。</p> | | | | | | | | | |
| 各事業の内容（具体的に記入すること） | | | | | | | | | | |
| 事業番号 | 1-① | 事業名 | 文化資源に関する解説の強化事業 | | | | | | | |
| 実施事業の内容 | <p>事業期間：2022年4月～2023年3月</p> <p>事業実施内容：小樽芸術村の3施設が所蔵する文化資源である美術品をデータベース化し、すでに導入済みの基本データや関連情報、解説を充実させて、文化資源の魅力を伝え、理解を進めるための基盤を整えることを目的として実施する事業の2年目。今年度は、元北海道立美術館学芸員2名に似鳥文化財団が収蔵する近代日本画や洋画などについて調査、執筆を依頼し、57作品について解説を執筆していただいた。また、これまで当館顧問や学芸員による調査・研究、展示活動により蓄積されてきたルイス・C・ティファニーのステンドグラスや浮世絵の組作品についての解説原稿を整理し、データベース公開用に編集した。これらの原稿は、有期雇用の作業員を雇用してデータベースに入力して公開したほか、一部をパネルにして展示作品に付した。</p> | | | | | | | | | |
| 事業の成果・効果 | <p>データベースでは、目標を上回る作品に関する情報を公開することができ、小樽芸術村収蔵作品の多様さや質の高さがより伝わりやすくなった。</p> <p>年間のPV数も目標を上回る数値を獲得（達成率130%）、小樽芸術村が収蔵・展示する作品の魅力を多くの方に伝えることができた。</p> | | | | | | | | | |
| 評価指標 | データベース公開作品件数(累計) | | | | | | | | | |
| 目標値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 188 | 件 | ⇒ | (目標値) | 令和 4 年度 | 400 | 件 | |
| 実績値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 188 | 件 | ⇒ | (実績値) | 令和 4 年度 | 422 | 件 | |
| 評価指標 | データベース利用者数(閲覧数) | | | | | | | | | |
| 目標値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 4,976(12月28日～3月31日) | PV(ページビュー数) | ⇒ | (目標値) | 令和 4 年度 | 20,000(前年度比3%増) | PV(ページビュー数) | |
| 実績値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 4,976(12月28日～3月31日) | PV(ページビュー数) | ⇒ | (実績値) | 令和 4 年度 | 26,073 | PV(ページビュー数) | |

| | | | | | | | | | |
|----------|---|-------|---------------------------------|-------------------------|---|-------|-------|--------|-------------------------|
| 事業番号 | 2-② | 事業名 | 旧三井銀行小樽支店での3D-VRによる体験型コンテンツ制作事業 | | | | | | |
| 実施事業の内容 | <p>事業期間：2022年11月～2023年3月</p> <p>事業実施内容：旧三井銀行小樽支店は、歴史的建造物を保存しつつ展示施設として活用しているため、バリアフリー化を図ることが難しく、車椅子の利用者や高齢者にとっては館内を自由に観覧することが困難である。この課題を解決するため、360度VRを導入し、旧三井銀行小樽支店内の外観及び内部空間を3D映像化。3月12日からweb上で公開、3月23日より館内3カ所にQRコードを掲載したパネルを設置し、来館者がQRコードを読み取ることによって自身のスマートフォンやタブレット端末で視聴体験できるようにした。</p> | | | | | | | | |
| 事業の成果・効果 | <p>最も大きな成果は、誰でも、いつでも、どこからでも、利用者自身の端末で、旧三井銀行小樽支店の細部まで探索できたり、解説パネルの文字を読みやすい大きさにして読んだりすることができるようになり、貴重な文化財の魅力や歴史的な背景への理解を促すことができるようになったことである。また、資料の管理や安全性の問題から非公開または立入禁止としているエリアの探索が可能となったことや、高所の意匠等を拡大して見たりできるようになったことで、歩行に問題のない来館者の博物館体験もより充実させることができるようになった。さらに、360度撮影の特殊カメラによる銀行建築の3Dデータを取得したことで、貴重な文化資源に関する詳細データの蓄積にも寄与することができた。</p> <p>PV数は、旧三井銀行小樽支店担当学芸員の退職に伴いVRに埋め込むためのデータの収集と確認に時間を要したこと、データ量が豊富なためにVRの編集作業に時間を要したために公開が遅れたことから、目標を達成できなかった。しかし、VRへの入口を設置した旧三井銀行小樽支店のページの3月のPV数は、VR公開前は1日平均110PVだったのに対し、パネル設置後は275PVと2倍以上に伸びており、関心の高さがうかがえる。今後も、展示資料の調査研究を進め、VR上でご覧いただける解説を増やしていくことも検討したい。</p> | | | | | | | | |
| 評価指標 | 3D-VR利用者数（閲覧数） | | | | | | | | |
| 目標値 | (現状値) | 令和3年度 | 0 | PV (ページ ビュー 数) | ⇒ | (目標値) | 令和4年度 | 15,000 | PV (ページ ビュー 数) |
| 実績値 | (現状値) | 令和3年度 | 0 | PV (ページ ビュー 数) | ⇒ | (実績値) | 令和4年度 | 4,646 | PV (ページ ビュー 数) |

※ 令和4年度に補助を受けた事業全てについて記載が必要です。適宜、行を追加してご使用ください。

※ 1事業1ページで記載をしてください。

| | | | |
|----------|---|-----|--------------------------|
| 事業番号 | 2-⑥ | 事業名 | 小樽及び後志地方の文化資源を中心とした研修会事業 |
| 実施事業の内容 | <p>事業期間：2022年8月～2023年3月</p> <p>事業実施内容： 地域住民を対象とした連続講座5回と、ニセコエリアのコンシェルジュなどを対象とした研修会を開催した。 連続講座は、「小樽の文化資源と観光」をテーマに10月末から12月にかけて5回開催した。地域住民等の中から、小樽のガイド人材である「おたる案内人」認定制度の資格取得者を増やし、小樽芸術村の文化資源だけでなく、近隣地域の歴史や文化にも目を向け、幅広く文化観光を担える環境づくりと、有償のガイド育成を目標とする。テーマの設定や講師の選定には、小樽市総合博物館の石川直章館長の協力を得た。ホームページへの掲載、チラシ2,000枚の制作と配布、地域誌の芸術村のページで告知したほか、共同申請者にも周知を依頼。講座には、「おたる案内人」や「旧三井銀行小樽支店ファンクラブ」の会員などを中心のべ192名が参加。研修会の内容は、講演録にまとめ500冊発行し、これまでに市内の教育機関や道内の生涯学習施設等約100カ所に配布。今後、希望者に有償で販売を予定している。 ニセコエリアのコンシェルジュを対象に小樽の文化資源理解を促進する研修会は2回開催した。ニセコプロモーションボード（NPB）の助言により時期を11月に設定し、1回目はオンラインでの英語による研修、2回目は現地での日本語による研修とした。小樽市観光協会の助言により、後志市区の各観光協会への周知の依頼を実施した他、ニセコエリアの宿泊施設へのメール送信、SNSへの転送依頼などを行ったが、各回とも2名の参加にとどまった。オンライン研修の様子は、通訳案内士協会の協力を得てオンライン研修の様子をYoutubeで限定公開した。 また、旅行ガイドや通訳案内士協会との連携により、同様の内容の研修を現地で2回開催して、合計26名の参加を得た。</p> | | |
| 事業の成果・効果 | <p>連続講座では、小樽市内の近代化遺産が建築史や金融史などの文脈に位置づけられ、自らガイドとして活躍している参加者にも知識の整理や深い理解を促す内容となった。講演録にまとめたことで、当日参加できなかった方にも広く内容を伝えることができ、小樽の文化資源に関する資料としても蓄積することができるようになった。一方、参加人数は目標を達成できなかった。要因のひとつは周知不足である。チラシの作成と配布が遅れたために、マスコミ取材の機会も逃してしまった。そのため1回目の参加者が特に少なく、後半の参加者アンケートに周知不足を指摘する声が寄せられた。もうひとつは、開催時期である。参加者は、高齢の方が多い。コロナウイルス影響が続く、かつ、冷え込みの厳しくなる季節であったため、外出を控えた人が多かったと考えられる。参加者アンケートでも、会場の寒さを指摘する声が寄せられた。来年度以降は、こうした点を重点的に改善する。</p> <p>ニセコエリアのコンシェルジュ向け講座は、webサイトやメール等のみの告知だったため、周知が不足していた可能性がある。2023年度は、現地で雇用する専門人材によるニセコエリアの宿泊施設との連携強化をはかりたい。なお、ガイド向けの講座は、コンシェルジュ向け講座をきっかけに開催することとなった。通訳案内士協会の研修では意見交換も行い、浮世絵等日本美術の展示機会の拡充や美術作品に関する研修会の開催の充実などの要望、文化観光をテーマにしたガイドのアイディアが寄せられるなど、今後の連携の強化につながる手ごたえを感じた。</p> | | |
| 評価指標 | 研修会の開催件数 | | |
| 目標値 | (現状値) 令和 3 年度 0 回 ⇒ (目標値) 令和 4 年度 7 回 | | |
| 実績値 | (現状値) 令和 3 年度 0 回 ⇒ (実績値) 令和 4 年度 9 回 | | |
| 評価指標 | 研修会参加延べ人数 | | |
| 目標値 | (現状値) 令和 3 年度 0 回 ⇒ (目標値) 令和 4 年度 270 人 | | |
| 実績値 | (現状値) 令和 3 年度 0 人 ⇒ (実績値) 令和 4 年度 221 人 | | |

| | | | |
|----------|--|-----|--------|
| 事業番号 | 3-① | 事業名 | 夜間開館事業 |
| 実施事業の内容 | <p>事業期間：2022年7月～10月</p> <p>事業実施内容：小樽市は観光客の滞在時間が平均5.3時間と短く、宿泊者数が観光入込客数の概ね1割程度と少ないこと、消費額が少ない現状がある。滞在時間延長や宿泊者数の増加に貢献できるような夜間コンテンツの充実を図ることで、観光客の滞在時間を延長し、宿泊を伴う観光を促進する環境を醸成することを目標として夜間開館を実施した。ただし、コロナウイルス感染症の影響が続いていることから、開催時期を比較的来訪者の増加が見込まれる2022年7月23日～10月8日の土曜（12日間）に限り、時間は20：00までとした。期間中の延長時間中（17：00～20：00）の入館者は3館で計1,230人であった。</p> <p>実施にあたっては、当館ホームページでの告知に加え、チラシを2,000部製作して観光案内所や近隣のホテル等に設置を依頼したほか、地域誌の芸術村の頁に掲載した。</p> <p>8月6日には、小樽アカペラフェスティバル実行委員会主催の「アカペラライブ」の開催に協力、中庭でアカペラコンサートが開催されたが、美術館への入館にはあまりつながらなかった。</p> <p>8月20日と9月3日には、夜間開館に合わせて、旧三井銀行小樽支店で開催中の特別展会場でギャラリートークを実施したが、コロナウイルスの感染拡大の影響でキャンセルが続出し、実際の参加者は2回で12名と低調であった。</p> <p>なお、2022年4月28日に開館した西洋美術館でも同期間、夜間開館を実施した（補助対象外）。期間中の無料エリア（ショップ、トイレ、休憩所がある。運営はニトリパブリック）の入館数は3,112人（うち美術館入館者数は299人）にのぼった。</p> | | |
| 事業の成果・効果 | <p>夜間開館はこれまでも単発で実施したことはあるが、継続的に実施するのは今年度が初めて。夜間開館をしていると知らずにたまたま訪れた方も多かった。一方、19：00から実施したギャラリートーク参加のため、終業後に遠方から駆け付けた方もあり、利用機会拡充の効果を感じることができた。2023年度は、より多くの方に認知してもらえるよう一層の周知徹底を図るとともに、コンサートやワークショップなど、来館の動機づけとなるコンテンツも充実させたい。</p> <p>2022年4月28日に開館した西洋美術館の無料エリアは、小樽を代表するフォトスポット浅草橋に隣接することから、延長時間中に多数の観光客が訪れ、土産物の売り上げが好調だった。一方で、入館料が必要な美術館への入館者数は無料エリア入館者のうち1割弱と少ない。2023年度は、多くの客が訪れる西洋美術館での掲示物の改善や告知活動を強化して、小樽の文化施設への周遊を促していきたい。</p> | | |
| 評価指標 | 夜間開館時間中の来訪者数 | | |
| 目標値 | (現状値) 令和 3 年度 0 人 ⇒ (目標値) 令和 4 年度 1,200 人 | | |
| 実績値 | (現状値) 令和 3 年度 0 人 ⇒ (実績値) 令和 4 年度 1,230 人 | | |

| | | | |
|----------|---|-----|----------------------|
| 事業番号 | 4-① | 事業名 | 和菓子作り等のワークショップ及び関連事業 |
| 実施事業の内容 | <p>事業期間：2022年11月～2023年1月</p> <p>事業実施内容：小樽芸術村は、小樽観光の中心に位置する小樽堺町通り商店街など周辺事業者と協力して、小樽市が抱える課題である滞在時間延長に貢献できるようなコンテンツの提供や、小樽芸術村来訪客が市内各所へ足を延ばし消費拡大を促すような取り組みを実施することが期待されている。2022年度は、小樽の老舗和菓子店「新倉屋」と連携して、新倉屋職員による新倉屋の歩みを通じた小樽の歴史文化の紹介と「小樽名物花園だんご」の館つけ体験を組み合わせたワークショップを開催した。和菓子店の繁忙期を避けて、1月15日（日）の11:00～、13:30～、15:00～の3回、各1時間程度実施し、計64名が参加した。参加者は、小樽市及び近隣町村在住の方の他、かつて小樽在住だった人や、本事業参加のために富良野から1泊でやってきた人、市内在住の外国人など多彩であった。</p> | | |
| 事業の成果・効果 | <p>老舗和菓子店と美術館の連携企画というユニークさからか、北海道新聞に2回掲載された。参加者アンケートによると、「あん付けが難しかったが楽しかった」というだんごに関するコメントだけではなく、「歴史的背景に関心が持てた」などの声が多く寄せられ、「食」を通じた小樽の歴史文化理解を促すことができた。また、講師の話に刺激されて、帰りに土産用の菓子を購入する人や、他店との食べ比べに意欲を見せる人もみられ、関連する商業施設の周遊や消費を喚起することができた。さらに、本事業終了後、西洋美術館ショップで新たに新倉屋の菓子を販売するなど、事業実施を通じて市内事業者との連携を強化することができた。新倉屋では、市内の大学や文化施設との連携でオリジナル菓子の製造もおこなっていることから、今後、小樽芸術村のオリジナル菓子の製造なども視野に入れながら連携の強化に努める。</p> | | |
| 評価指標 | 事業の参加者数 | | |
| 目標値 | (現状値) 令和 3 年度 0 人 ⇒ (目標値) 令和 4 年度 40 人 | | |
| 実績値 | (現状値) 令和 3 年度 0 人 ⇒ (実績値) 令和 4 年度 64 人 | | |
| 評価指標 | 参加者のNPS（参加者を対象にアンケートを実施する） | | |
| 目標値 | (現状値) 令和 3 年度 0 ポイント ⇒ (目標値) 令和 4 年度 40 ポイント | | |
| 実績値 | (現状値) 令和 3 年度 0 ポイント ⇒ (実績値) 令和 4 年度 58 ポイント | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------|--|-----|----------------------------|----|-------|---|---|-------|----|---|----|-------|---|
| 事業番号 | 4-② | 事業名 | 小樽運河周辺地区の商業観光施設と連携した商品開発事業 | | | | | | | | | | |
| 実施事業の内容 | <p>事業期間：2022年9月～2023年2月</p> <p>事業実施内容：小樽の文化資源観光施設では、札幌の施設と比べてショップでの消費額が多い傾向が見られるが、そうした消費行動に十分応えられる魅力的なミュージアムグッズや商品を提供できていない。この課題を解決するために4年計画の1年目として本事業を行う。具体的には、小樽堺町通り商店街を中心に近隣の商店と協同して、芸術村の建築物や所蔵作品などの文化資源をモチーフとしたオリジナル・グッズを開発し、双方の施設で販売することで、周辺商業施設も含めた消費拡大を図る。</p> <p>今年度は、小樽堺町通り商店街会員の「小樽和菓子工房游菓」と連携し、小樽地鶏の卵を使用したどらやきに小樽芸術村のシンボルマークの焼き印を押したどら焼きを開発。パッケージデザインは、すぐれたデザインのオリジナルグッズの制作・販売を行う「うんがぶらす」に依頼し制作した。</p> <p>オリジナル菓子は、11月25～27日にかけては、ウイングベイ小樽で開催された「otaruスイーツフェスタ2022」会場と、西洋美術館ショップで100個販売し完売。2月11日から18日にかけて開催された小樽の冬を代表するイベント「雪あかりの路」の期間中は、西洋美術館で230個を販売、完売した。単価は、1個200円、4個入り1箱880円で販売した。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 事業の成果・効果 | <p>これまで、小樽芸術村にはオリジナルの菓子がなく、箱入りの菓子は手土産に喜ばれた。次年度以降もイベント等に合わせて販売し、小樽に和菓子屋が多い理由を記載した菓を附属させるなどの工夫をして、食を通じた小樽の歴史文化の理解促進に努める。</p> <p>客単価は、目標をわずかに下回る1,392円だった。2月迄は1,414円と目標をわずかに上回っていたが、3月に入り客単価が下がった。これは、春休みに入って学生や子どもが増えたことや、在庫図録の経年劣化の懸念や保管場所のひっ迫といった理由から在庫を整理する必要があり、在庫数が多い一部図録の単価を半額以下に引き下げたことが影響していると考えられる。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 評価指標 | 施設内における来訪客の客単価 | | | | | | | | | | | | |
| 目標値 | (現状値) | 令和 | 3 | 年度 | 1,300 | 円 | ⇒ | (目標値) | 令和 | 4 | 年度 | 1,400 | 円 |
| 実績値 | (現状値) | 令和 | 3 | 年度 | 1,300 | 円 | ⇒ | (実績値) | 令和 | 4 | 年度 | 1,392 | 円 |

| | | | | | | | | | |
|----------|--|---------|-----------------------------|------------|---|-------|---------|--------|------------|
| 事業番号 | 5-① | 事業名 | 所蔵の文化資源を活用したニセコでのプロモーション展事業 | | | | | | |
| 実施事業の内容 | <p>事業期間：2022年9月～2023年3月</p> <p>事業実施内容：ニセコ地区で急増する外国人旅行者は小樽芸術村への潜在的な来訪者層として期待できるが、これまでは観光関連組織と連携した取組が十分ではなかった。そこで（一社）ニセコプロモーションボード等との連携を強化し、現地のインバウンド層を対象に高精細レプリカを活用した展覧会を開催するなど、小樽芸術村への誘客の仕掛けづくりを実施していくことが必要である。2021年度より、葛飾北斎の代表作《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》や肉筆画《雲龍図》などのほか、喜多川歌麿や歌川広重など、芸術村が収蔵する貴重な浮世絵版画を中心に50作品をスキャンし、高精細データ、マスターレプリカを制作してきた。これを展示することにより、ニセコ地区滞在者の小樽芸術村収蔵作品や小樽のまちへの関心を促し、小樽への誘客を図る。また、高精細データおよびレプリカの制作は、貴重な文化財の研究と保護にも役立つ。さらに、レプリカ絵画を増刷し、希望者への販売（販売用制作は自主財源にて実施）を行うことで美術品の多角的波及と文化資源の磨き上げへの再投資をする。</p> | | | | | | | | |
| 事業の成果・効果 | <p>外国人の来訪客数は、コロナウイルスの影響は引き続きみられるが、12月から2月にかけて外国人旅行者が増加、来訪客数は目標を達成した。</p> <p>当館収蔵の文化資源のスキャン、高精細データとマスターレプリカの制作も、50作品について実施した。昨年度までに完成したマスターレプリカは、似鳥美術館の無料エリアで展示販売したほか、当館での浮世絵展の開催にあわせて「アンワインドホテル&バー」（小樽）で1点、NTTインターコミュニケーションセンター（東京）で6月2日～7月3日に開催された「Digital×北斎」特別展で2点を展示し、芸術村への誘客や収蔵する文化資源の周知に努めた。来年度は、ニセコエリアでのレプリカの展示を予定しているほか、市内の観光施設での展示を交渉中で、高精細のレプリカ作品を活用していきたい。</p> <p>一方、レプリカの購買点数は、わずか1点にとどまった。これは、価格が高額（税込み220,000円）であること、完全受注性のため納品までに1か月程度の期間がかかること、対応する人員が課題となり販売方法を似鳥美術館のショップでの受注のみに限定したことが主な原因と考えられる。来年度は、ニセコエリアでの展示会に合わせた販売や、ニトリの関連会社や百貨店の外商との連携による販売も検討中である。</p> | | | | | | | | |
| 評価指標 | 外国人来訪客数 | | | | | | | | |
| 目標値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 500 人 | (外国人比約 3%) | ⇒ | (目標値) | 令和 4 年度 | 7500 人 | (外国人比 5%) |
| 実績値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 500 人 | | ⇒ | (実績値) | 令和 4 年度 | 9523 人 | (外国人比約 4%) |
| 評価指標 | 購買点数 | | | | | | | | |
| 目標値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 0 枚 | | ⇒ | (目標値) | 令和 4 年度 | 10 枚 | |
| 実績値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 0 枚 | | ⇒ | (実績値) | 令和 4 年度 | 1 枚 | |
| 評価指標 | レプリカ制作数 | | | | | | | | |
| 目標値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 50 枚 | | ⇒ | (目標値) | 令和 4 年度 | 50 枚 | |
| 実績値 | (現状値) | 令和 3 年度 | 50 枚 | | ⇒ | (実績値) | 令和 4 年度 | 50 枚 | |

| | | | |
|----------|--|-----|---------------------|
| 事業番号 | 6-① | 事業名 | 展示の魅力を増進するための施設改修事業 |
| 実施事業の内容 | <p>事業期間：2022年9月～2023年3月</p> <p>事業実施内容：小樽芸術村は、歴史的建造物を活用した展示施設であるため、専用建築と比べて展示環境に課題が多い。展示室や展示ケースも狭いために収蔵する文化観光資源を十分に活用できていない現状がある。このような施設的な制約を改善する事業の一環として、似島美術館3階展示室に可動式の展示ケース4基を設置した。展示室の中心に並ぶ柱と柱の間に設置できるように、w2300×d750×h2700と、w1800×d750×h2700の2種類の大きさで、各2基制作した。継ぎ目のない大きなガラスを嵌めた前面の扉が開閉する構造で、展示物の視認性が高く、展示作業の作業性にも優れる。ケースの背面にもピクチャーレールを取り付け、多様な使用方法に対応できるようにした。</p> | | |
| 事業の成果・効果 | <p>展示面積の増加により、文化資源の展示範囲や方法を多様化させ、魅力的な展示内容へと更新することができるようになった。現在は、人気の高い藤田嗣治の版画の特集展示を開催。また、ケースの背面を利用して、展示室入口正面に油彩画を1点展示、インパクトのある展示とした。</p> <p>今後も常設展示作品と関連させたテーマや他館との連携展示など、1～2か月毎に展示替えを行うことで、リピーターを増加させて固定ファン層の拡大を促していきたい。</p> | | |
| 評価指標 | 来訪者のリピート率 | | |
| 目標値 | (現状値) 令和3年度 12% ⇒ (目標値) 令和4年度 14% | | |
| 実績値 | (現状値) 令和3年度 12% ⇒ (実績値) 令和4年度 14% | | |